



地球環境に対する価値創造

環境経営の推進

環境保護推進体制

NTT西日本グループでは、「環境保護活動を推進することは社会とともにある企業の社会的責任である」という考えのもと、「NTT西日本グループ地球環境憲章」を制定、2010年度には、新たに「生物多様性の保全」に関する項目を追加しました。

具体的な取り組み内容については、NTT西日本の環境経営推進室とグループ各社の環境保護推進担当が連携し、NTT西日本グループ内で環境方針や環境保護対策などを展開しています。

グリーンNTT西日本戦略

NTT西日本グループは電力エネルギーを大量に消費する企業として、自ら積極的に省エネルギーや環境問題に取り組んでいくため、

- 環境ブランドデザインの実現
自らの環境負荷を低減することで社会に貢献します。
- 環境・エネルギー事業の展開
ICT活用による事業活動の展開で環境に貢献します。
- 生物多様性保全活動の推進
社員一人ひとりが、地域の生物多様性保護へ貢献します。社員一人ひとりが、地域の生物多様性保護へ貢献します。を柱としたグリーンNTT西日本戦略を2012年6月に策定しました。

「環境ブランドデザイン」(新たな自主行動計画目標)

NTT西日本グループでは、低炭素社会の実現と、循環型社会の形成に向けて、とくに電力削減目標と紙使用量削減目標ならびに廃棄物最終処分率目標を「環境ブランドデザイン」として策定しています。

「環境ブランドデザイン」で掲げる2020年度目標については下記の通りです。

NTT西日本グループ地球環境憲章

基本理念

人類が自然と調和し、未来にわたり持続可能な発展を実現するため、NTTグループ地球環境憲章に則り、NTT西日本グループはグループ会社と一体となって、全ての企業活動において地球環境の保全に向けて最大限の努力を行います。

基本方針

- 1 法規制の遵守と社会的責任の遂行**
環境保全に関する法規制を遵守し、国際的視野に立った企業責任を遂行します。
- 2 環境負荷の低減**
温室効果ガス排出の低減と省エネルギー、紙等の省資源、廃棄物削減に行動計画目標を設定し、継続的改善に努めます。
- 3 環境マネジメントシステムの確立と維持**
各事業所は環境マネジメントシステムの構築により自主的な環境保護に取り組み、環境汚染の未然防止と環境リスク低減を推進します。
- 4 環境技術の普及**
マルチメディアサービス等の研究開発成果の積極的な社会への普及を通じて、環境負荷低減に貢献します。
- 5 社会支援等による貢献**
地域住民、行政等と連携した、日常的な環境保護活動への支援に努めます。
- 6 環境情報の公開**
環境関連情報の公開により、社内外とのコミュニケーションを図ります。
- 7 生物多様性の保全**
生物多様性と事業との関わりを把握し、生物多様性を将来世代に引き継ぐ為に、取り組みを推進します。

環境ブランドデザイン

温暖化対策

・2010年度と比較し、2020年度には
自責電力を**40%以上**、
総電力を**20%以上削減**
(参考) 2010年度の総CO₂排出量は
93.3万t*1
自責電力は15.6億kWh
総電力は21.08億kWh

紙資源削減

・2008年度と比較し、2020年度には
総紙使用量を**40%以上削減**
(参考) 2008年度の総紙使用量は3.99万t
・2008年度と比較し、2015年度には
一人あたりの事務用紙使用量を
50%以上削減
(参考) 2008年度の一人あたりの
事務用紙使用量は、0.99枚

廃棄物削減

・2020年度には全廃棄物合計の最終
処分率を**1.0%(ゼロエミッション)*2**に
(参考) 2008年度の最終処分率は2.1%
・撤去した通信設備廃棄物については、
最終処分率**0.1%**を維持

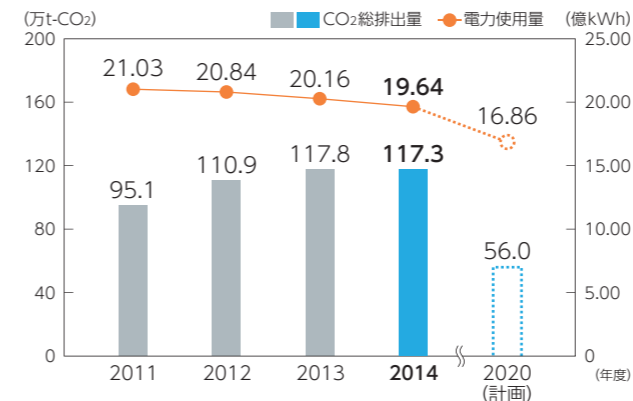
*1 2010年度の実績については、電気事業連合会が公表している排出係数0.44kg/kWhを用いて算出しています。
*2 国連大学が提唱した構想で、産業から排出される全ての廃棄物や副産物がほかの産業の資源として活用され、全体として廃棄物を生み出さない生産をめざそうとするもの。NTT西日本グループでは、最終処分率1%以下をゼロエミッションと定義。

温暖化対策

NTT西日本グループのCO₂排出要因としては、電力使用・社用車使用・燃料(ガス・石油)使用があり、電力使用が要因の大半を占めています。

2014年度は、2013年度に比べ約5,200万kWhの電力使用量を削減しており、CO₂総排出量についても減少しています。

CO₂総排出量の推移



年度	2011	2012	2013	2014
排出係数 (kg/kWh)	0.432	0.512	0.562	0.557

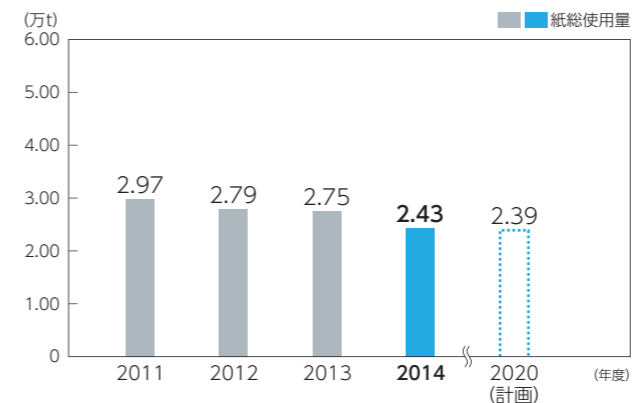
(注) NTT西日本グループが各電気事業者ごとに使用している電力量に応じて、各電気事業者が毎年公表している排出係数を加重平均した値です。

紙使用量削減

NTT西日本グループで使用する紙には電話帳、請求書、事務用紙、電報があります。2014年度の総使用量は2.43万tで、内訳は電話帳1.98万t、請求書0.22万t、事務用紙0.19万t、電報0.04万tです。

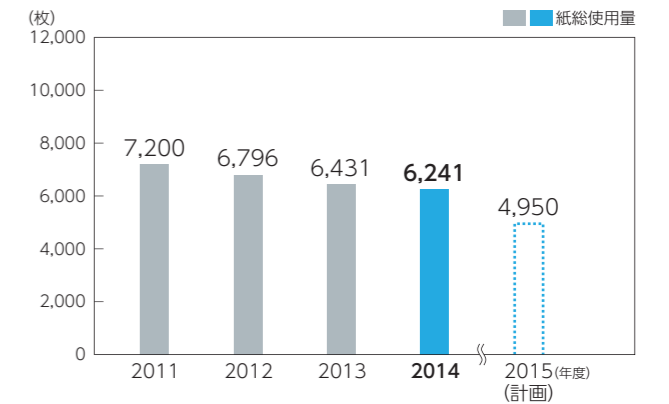
ペーパーレス会議の徹底や社内利用用紙のシステム化による徹底的な削減などを進めるとともに、お客さまの

紙総使用量



ご協力を得ながら、請求書の有料化などにより紙使用量の抑制を行っていきます。

1人あたりの事務用紙使用枚数

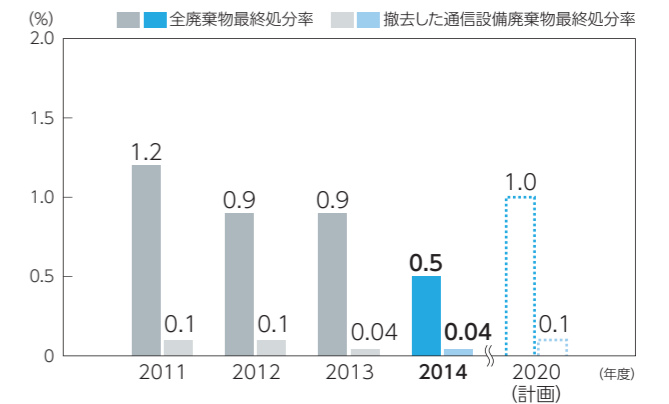


廃棄物最終処分率低減

廃棄物には、撤去通信設備廃棄物、土木工事廃棄物、建築工事廃棄物、オフィス内廃棄物が含まれています。

2014年度の廃棄物の最終処分率は0.5%で2012年度から3年連続でゼロエミッションを達成しました。内訳としては、撤去通信設備廃棄物の最終処分率0.04%、土木工事廃棄物の最終処分率0.6%、建築工事廃棄物の最終処分率1.2%、オフィス内廃棄物の最終処分率0.7%です。

廃棄物最終処分率



生物多様性保全活動(みどりいっぱいプロジェクト)の進捗

全府県、1万人を目標として、18府県、約2,000人から始まった活動は、2014年度には全30府県、11,526人の活動となり、自治体・NPO法人などと連携した地域保全活動や、植樹活動などが展開されました。

今後も1万人をめざし、地域の生物多様性保全に積極的に取り組みます。



事業を通じた価値創造

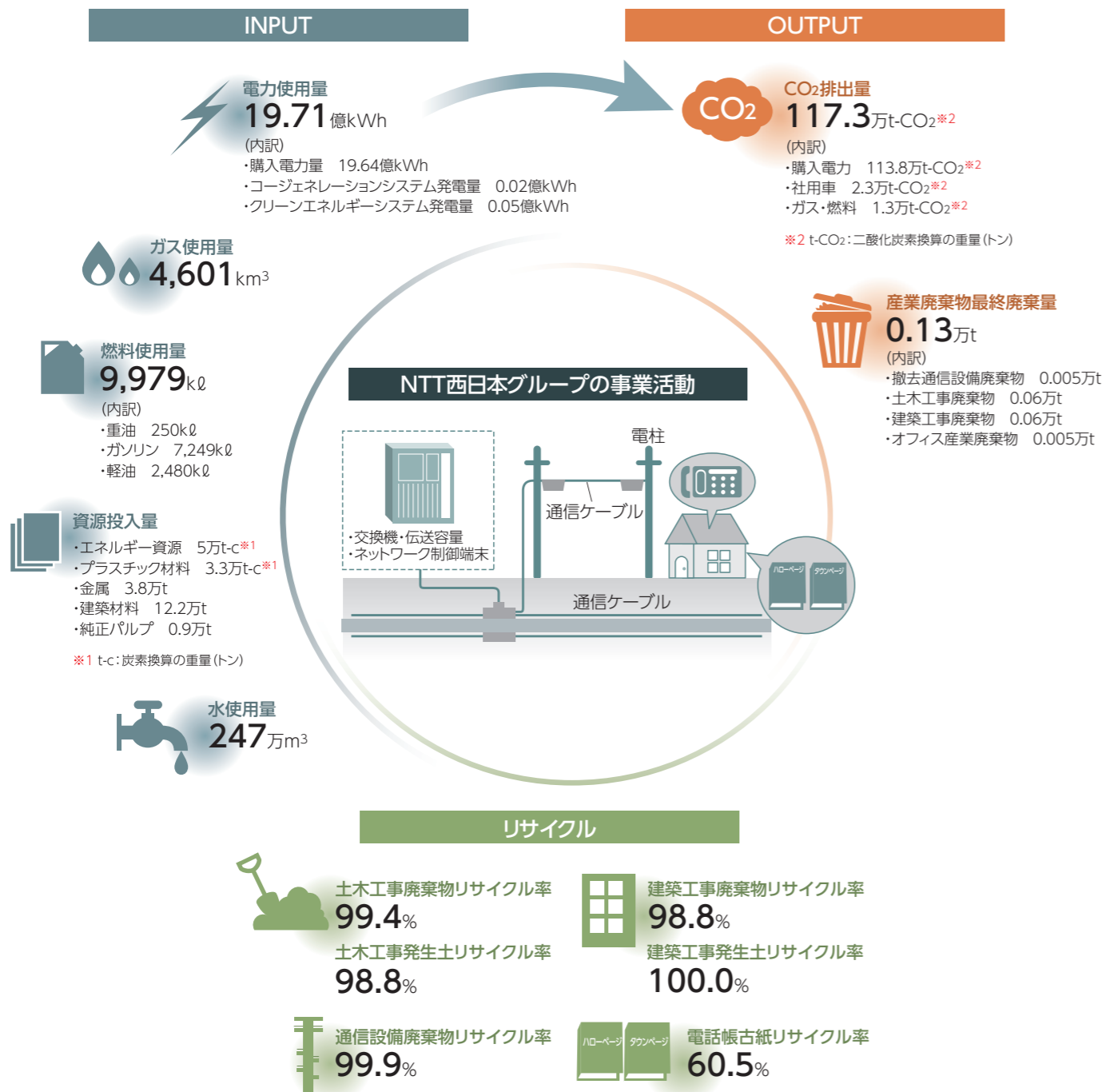
地球環境に対する価値創造

事業活動に関わる環境負荷

西日本全域で事業を展開するNTT西日本グループは、事業規模も大きく、それだけに相当の環境負荷を与えています。

例えば、お客さまの通話を可能とするためには、電話機、

マテリアルフロー



西日本全域に張り巡らされた通信ケーブル、および交換機などのネットワークが必要となり、それらに関する物流、工事、運用、サービス、商品の提供といった事業活動には大きな環境負荷がともないます。

NTT西日本グループは、下図に示すマテリアルフローを定量的・定期的に把握し振り返ることにより、継続的な環境負荷の低減に役立っています。

TOPICS 2014

「アダプト制度」を利用した福岡県糸島市における「みどりいっぱいプロジェクト」活動について

福岡県糸島市の海岸沿いに防風・防砂林として古くから植えられている松林に、近年、松くい虫による松枯れ被害が爆発的に広がっていたため、NTT西日本グループが取り組んでいる「みどりいっぱいプロジェクト」の一環として、糸島市が2014年8月より導入した「アダプト制度」を利用して、同年10月に松林の保全活動を実施しました。

アダプトとは英語で「養子縁組する」の意味であり、一定区画の公共の場を市民や企業、団体などが養子とみなし、わが子のように愛情をもってその区画の美化活動を継続的に実施していく活動となっています。

主な活動として、松枯れ被害から木々を守るために、松くい虫が潜む枯れ枝の撤去や松葉掻き、草刈りを社員とその家族により実施しました。また、糸島市が委託した地域ネットワーク「里浜つなぎ隊」の協力により、道具の借用や作業指導を受けることができ、さらに自然観察会を開催することで、子どもを含む全参加者に対する森林保全活動の啓発に繋げることもできました。

このように、自治体などと連携し、地域の抱える問題解決に貢献できる活動を今後も積極的に継続して実施していきます。



松林保全活動の参加者 (2014年10月)



自然観察会の様子



枯れ枝や松葉をかき集めている参加者

アダプト制度の概要

出典元:公益社団法人 食品容器環境美化協会ホームページ

